

ああ 遠くの空は 晴れている



NO31

南箕輪村教育委員会

南箕輪村三校合同研修会 (8/19) 報告 (1)

子どもに合った指導・支援(合理的配慮を含む)は、 一緒に考えることが重要！

通常学級で、特性をもった子どもの「学び」をどう保障するか、共に学び合う授業づくりの基礎・基本や大きな風呂敷で子どもを包み込む学級づくりについて自らの指導を振り返り(リフレクション)、ワークショップ形式でお互いの考えや思いを意見交換しながら、日々の教育活動を充実させることを趣旨とした三校合同研修会を企画しました。8月19日は全体研修として神戸女子大学教授(前文部科学省 特別支援教育調査官)の田中裕一氏を講師としてお迎えして「『学び方』はひとつじゃない」～教師の工夫で子どもは「わかる」「かわる」～と題した講話をお聞きしました。各教職員が、2学期からの教室での対応について、具体的な学ぶよい機会となりました。(三校の教職員中心に約150名が参加)当日の様子を2回に分けて報告します。

【資料の出典:田中氏作成のPP資料から】

①一番強調されたこと・・・ 子どもに合った指導・支援(合理的配慮を含む)は、一緒に考えることが重要！

誰と一緒に？⇒保護者、本人、友人、校内の教職員、管理職、ドクター等

②子どもに合った指導・支援が「本当に正しいのか」「よりベターな方法はないか」問い続けたい、学び続けたい

③配慮を必要とする子どもへの対応のヒント

③(1)ア 個別の支援が一番必要な子どもを想定して
ユニバーサルデザインを考える。

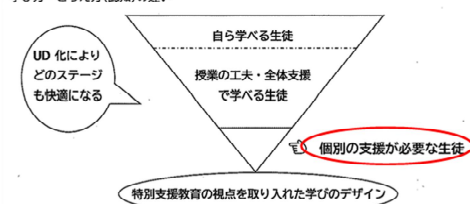
4 配慮を必要とする子どもへの 対応のヒント

- (1) ユニバーサルデザイン
- (2) 褒める・肯定的な評価
- (3) 「なぜ」を考えた対応
- (4) 適切な目標の設定と共有

○ユニバーサルデザインとは、
「年齢や能力、状況などにかかわらず、できるだけ多くの人が利用可能にすること」が基本コンセプトである。

どのように考えることが、 ユニバーサルデザインのか？

学び方・とらえ方(認知)の違い



③(2) 褒める・肯定的な評価

⇒「褒めて正しい行動を教える」が基本。

田中流:褒めるときの5原則
(褒めた相手に伝わる工夫)

- 1: できた結果でなく、しようとしたこと
ほんの少しの努力を褒める
- 2: 次にどうしたら褒めてもらえるかが
分かるように褒める(具体的に)
- 3: 呼名・・・視線の高さも重要
- 4: スキンシップをしながら
(障害の特性、年齢、性別に配慮)
- 5: 教師や友だちの気持ちを伝える

○ワーク「褒める」って簡単？
「あ、い、う、え、お、か、き・・・」の順で
誉め言葉を考えましょう！

例
あ:ありがとう、明るいね
い:いいね、意志が強いね
う:うれしいな、うまい、腕がいい
え:ええね、エレガント
お:おいしいね、おだやかだね
か:かっこいいね、輝いているね
き:気が利くね、期待しているよ
く:クール、クリエイティブ

○褒め言葉を考えるワーク、脳みそが
沸騰しました。ぜひご家庭でも考
えてみましょう！な:ナイス、ナイ
ブ、わざと、「ながれいし」【流石
(さすが)と言うよりも、中学生
は喜びます】。

③(1)イ 5つの授業スキルを大事にしていこう。

別添資料参照

5つの授業スキルとは？

教科の枠を超えた5つの授業スキル

- | | |
|-------------|---------------------|
| ①アイコンタクト | 基本スキル(コミュニケーションスキル) |
| ②立ち位置 | |
| ③机間巡視 | |
| ④言葉を削る | 特性に配慮するスキル |
| ⑤目でわかる工夫をする | |

